
ミニ物語～イジメ～

凧夜 流歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミニ物語〜イジメ〜

【Nコード】

N6202V

【作者名】

風夜 流歌

【あらすじ】

突然始まった、いつの時代にもある、イジメ。

ああ、ほんと

笑えるくらい古典的

前編（前書き）

微妙に長くなっちゃって、無意味に前後編

前編

自分は彼等に、同じクラスで勉学を学ぶ彼等に、何かしただろうか。考えを巡らせてみても思い当たる節がなく、んー。と首を捻る。

朝雛の目の前には、自分の使っている机や椅子、更には机の中に入っていたはずの教科書やノートの目をつむりたくなるような有様にもう一度首を捻った。

この、暑いほどの晴天の光の降り注ぐ自分の机の在るべき場所は、ものの見事に水浸しだった。

机や椅子は何故か倒れていて、その周りの床に散らばった教科書類も水を吸って無残な姿になっている。

朝雛はそれを目の前にして、立ち尽くしていた。

窓側の席なので、入ってくる朝日が水溜まりに反射して眩しい。

さてこれは、どうしたものか。

教室の端の方にいるクラスメート数人がこちらを見てクスクス笑っているので、恐らくやったのはあいつらだ。

怒鳴りつける？泣きわめく？半泣きになりながら文句も言えず片付ける？

それじゃあ、面白くない。

後ろで笑っているクラスメートが付け上がるだけだ。

こんな事をされて、心底いらつくが、ここは少し落ち着いてみよう。さてあいつらはどういう反応を見せるかな？

朝雛は表情を浮かべないまま、机と椅子を起こし、水に浸かっている教科書類を机の上に置いてから、スタスタと教室を後にした。

悔しがるでもなく、泣くでもなく、何の反応も見せず平然とそれをやっている朝雛にクラスメート達の笑い声が消えた。

面白くない。そう思っているのだろうか。

教室を出ていく朝雛をクラスメート達はただ啞然と見送っていた。

後編

戻ってきた朝雛は、しかし一人ではなかった。

「先生、これ見たてくださいよ。朝来たら机の周りこんなだったんですよ？酷いと思いませんか？」

そう言う朝雛はちらつとクラスメートを見る。

やつらもまさかこんな堂々と先生を呼んでくるとは思わなかったようだ。少し焦っているように見える。

こんなんじゃ焦るなんて、なんて小さなやつらなんだろう。

先生は心当たりを聞いてきたが、『わからない』と答えた。

言っても良かったのだが、証拠が不十分なために、言ったところでシラを切られるのが落ちだ。

先生はクラスにいた生徒にも見てないか聞いて回っていたが、皆一様に知らないと答えるばかりだった。

「仕方ない。朝雛、先生も手伝うからとりあえず片付けよう。これじゃ授業が受けれんだろ」

「はい」

古典的なイジメをする、性格が子供のクラスメート。

多分明日はもっと酷いイジメになるのかな、と内心期待している自分に自嘲する。

授業の準備があるから、と先生は職員室に戻って行った。

教室に残るのはガキみたいなクラスメート。

そして、

「・・・やり方が古典的で逆に笑える」

そうクラスのやつらに聞こえるように呟いて嘲笑う自分もまた、ガキみたいな性格の高校生。

後編（後書き）

中身のない話で申し訳ない。自分ならこうした、ってことを書いてみたくなっただけなんです。実際こんな酷いのはされたことないんですがね。古典的すぎて逆に笑える。ってのは、実際に言いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6202v/>

ミニ物語～イジメ～

2011年10月6日14時14分発行